令和　７年　６月３０日

令和６年度　特別の教育課程の実施状況等について

宮城県		
学　校　名	管理機関名	設置者の別
気仙沼市立唐桑小学校	気仙沼市教育委員会	公立

１．学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学　校　名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
気仙沼市立唐桑小学校	http://www.kesennuma.ed.jp/karakuwa-syou/wysiwyg/file/download/1/41

２．学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学校名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
気仙沼市立 唐桑小学校	http://www.kesennuma.ed.jp/karakuwa-syou/wysiwyg/file/download/1/4062	http://www.kesennuma.ed.jp/karakuwa-syou/wysiwyg/file/download/1/4061

３．特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

（１）特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

・計画通り実施できている

・一部、計画通り実施できていない

・ほとんど計画通り実施できていない

（２）保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

・実施している

・実施していない

＜特記事項＞

特別の教育課程「海と生きる探究活動」を中心とする本校の海洋教育を発信する場として「リアスサミット in 唐桑」を設定し，活動を通して全学年の児童が交流し合ったり，保護者や学校支援委員会（唐桑公民館や宮城県漁業協同組合唐桑支所及び同青年部，地元の漁師経験者で結成された海友会など）の方々が参観し，助言・感想をいただいたりすることで，児童が，課題をさらに深く解決しようとする動機付けにつ

ながっている。また，５，６年生児童と学習支援者とが１年間の活動を振り返る「探究活動座談会」の場を設けたことで，探究の内容や活動の過程について客観的に評価したり，学びの価値について考えたりすることができた。

４．　実施の効果及び課題

（１）特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

本特例は，震災からの持続可能な復興を目指す気仙沼市が掲げる「海と生きる」を大テーマとし，唐桑地区において「海洋リテラシーfor 気仙沼」を身に付けた児童の育成を図ることによって，持続可能な気仙沼市の未来を築く気仙沼人としての「知識・技能の習得」「思考力・判断力・表現力の育成」「学びに向かう人間性の涵養」を目指す。そのために，本校では，これまでの地域との連携を生かし，前述の学校支援委員として協力いただいている方々を中心に，地域との一層の関わりを重視した協働的な海洋教育の支援体制づくりに努めている。主体的に探究しようとする姿や，課題を「自分事」として捉え今の自分に出来ることを実践につなげようとする意欲・態度から，児童の物事に対する考え方，取り組む姿勢，行動など，日常生活・社会活動において重要な影響を及ぼす能力，いわゆる「非認知能力」が確実に向上してきた。

（２）学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

海と生きる探究活動を３年間行ってきた６学年児童は「まちづくり」や「唐桑の地域」に重点を置いて取り組んできた。昨年度の「リアスサミット in 唐桑」での内容やその態度を見ると，まちづくりや，唐桑町の漁業など，地域の良さについて考えを深めていることがうかがえる。また，中井小学校と統合したこともあり，学区が広がり新たな地域の良さに気付き，探究することでより深い学びを実現し，発信することができた。特別の教育課程を編成し，「海と生きる探究活動」を行ってきたことで，子どもの将来や人生を豊かにする力として今後も重視したい「非認知能力」は高まっている。今後は，非認知能力と認知能力の一体的な向上を目指していく必要がある。

５．課題の改善のための取組の方向性

今後も，校内研究等を通して協働的に指導法の改善に努めるとともに，他教科との関連をより一層明確にしていく必要がある。教員自身が教科と海と生きる探究活動との関連を強く意識しながら指導していくことで，非認知能力と認知能力の一体的向上につなげていきたい。